

小学校 外国語活動・外国語科

徳島県教育委員会

I.1 全国主事会における伝達事項（1）

平成29年学習指導要領の改訂のポイント

(1) 中学年の外国語活動、外国語科の導入の趣旨

小学校では、平成23年度から高学年において外国語活動を導入。その充実により、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められた。

一方で、

- ・音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない。
- ・日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題。
- ・高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる。
- ・学年が上がるにつれて児童の学習意欲に課題。学校種間の接続が十分とは言えず、学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができない。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（1）

平成29年学習指導要領の改訂のポイント

- 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」外国語活動・外国語編
- 2 中学年の外国語活動の導入の趣旨と要点（p.8）
 - 2 外国語科導入の趣旨と要点（p.64）

外国語学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

外国語学習の特性を踏まえて「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして国際的な基準などを参考に、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域で英語の目標を設定

小学校中学年に新たに外国語活動を導入し、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの領域を設定し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成した上で、高学年において「読むこと」、「書くこと」を加えた教科としての外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（1）

小学校・中学校・高等学校における外国語活動・外国語の目標

小学校外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

高等学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなぎ付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

外国語における言語活動について

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編より一部抜粋

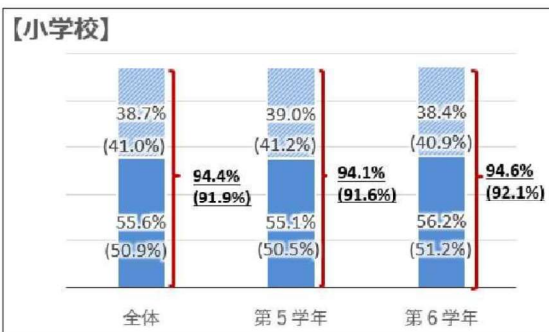
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定
- ・簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切に
- ・具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して
- ・言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたり

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

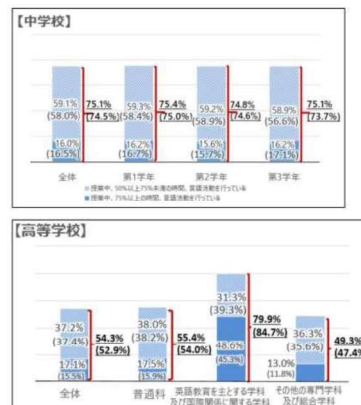
I.1 全国主事会における伝達事項（2）

令和5年度「英語教育実施状況調査」より

児童生徒の英語による言語活動の状況



- 小学校では90%以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 中学校では75%以上の学校が半分以上の時間、高等学校では50%以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。



(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

外国語における言語活動の捉え

「言語活動」とは

外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。

したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというそうではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(2017年 文部科学省)

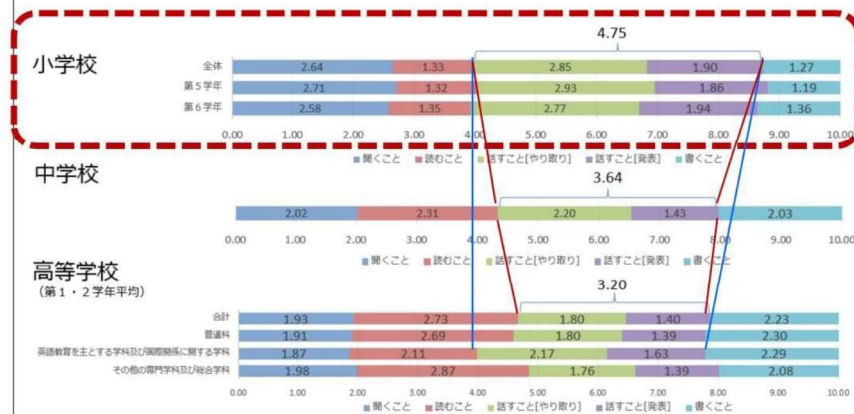
(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

令和5年度「英語教育実施状況調査」より

言語活動の内訳

言語活動（時間）を10としたときの、「話すこと」の割合の平均は、小学校で4.75、中学校で3.64、高等学校で3.20（英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科では3.80）である。



(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組

児童生徒の英語による言語活動の状況

- ①小学校においては、授業における言語活動の割合が高い。
- ②言語活動の内訳では、小学校において「話すこと」の割合が一番高く、その次に「聞くこと」の割合が高い。外国語科の「思考力、判断力、表現力等」の目標にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」ことへの理解は図られていると思われる。

- ①授業における言語活動の割合には地域差がある。
- ②各領域を関連付けながら、系統的な指導を行っているか。また、単元など内容や時間のまとまりの中で指導することを大切にしているか。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項

〔知識及び技能〕

(1)英語の特徴やよまに関する事項

ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

①授業における言語活動の割合には地域差がある。

令和5年度英語教育実施状況調査の結果より

→生徒の英語力向上には、授業における言語活動の状況や教師の英語使用の状況が関連している

○小学校外国語活動・外国語科において、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地/基礎となる資質・能力を育成することは、中学校への接続に向けて重要。



実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成すると「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」
(2017年 文部科学省)

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（2）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

- ②各領域を関連付けながら、系統的な指導を行っているか。また、単元など内容や時間のまとまりの中で指導することを大切にしているか。

<My summer vacationの例>

単元終末の活動	自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出についてALTや友達に発表する。
第1時	ALTの話聞いて、単元の場面や状況を理解することができる。
第2時	夏休みの思い出について紹介する表現を聞き取ることができる。
第3時	夏休みの思い出について聞いたり、話したりすることができる。
第4時	夏休みの思い出について聞いたり、話したりすることができる。
第5時	夏休みの思い出について、具体的な情報を聞き取ったり、自分のことをよく知ってもらうために話したりすることができる。
第6時	相手のことを知るために、夏休みの思い出の話聞いて、具体的な情報を聞き取ったり概要を捉えたりすることができる。また、ポスターを読んで意味が分かる。
第7時	友達に自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出について話すことができる。
第8時	ALTに自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出について話すことができる。

授業は、目標のもとに設定される。よって、「言語活動」も「言語活動を通しての指導」もすべて、目標につながるが重要。

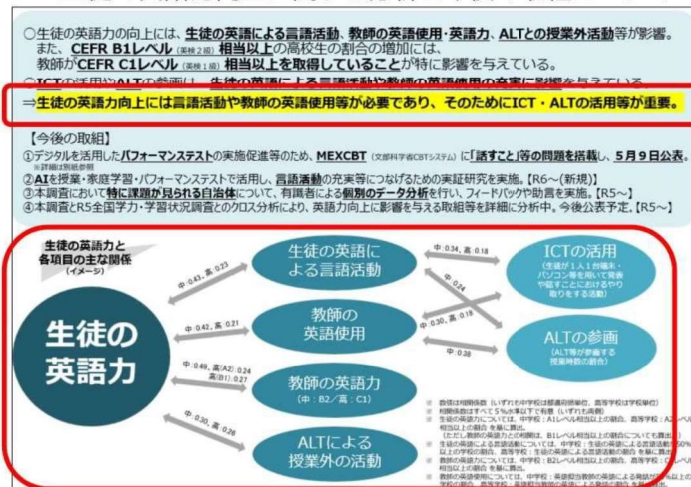
R5.6月「小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会」資料より

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（3）

令和5年度「英語教育実施状況調査」より

生徒の英語力向上に関する分析と今後の取組について



（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（4）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標

	設定	把握	公表
小学校	84.5(78.8)	74.9(70.0)	58.2(48.4)
	9.6(8.8)	16.7(21.6)	26.3(30.4)
高等学校	96.1(94.1)	80.7(78.4)	71.6(65.7)
	15.4(15.7)	9.1(12.7)	24.5(28.4)
	94.8(93.5)	65.0(64.1)	66.2(64.0)
	29.8(29.4)	1.2(0.1)	28.6(29.5)

作成の目的の理解
・既成のもの(教科書付録、委員会作成など)をそのまま利用せず、自校で作成しているか。

※()は、R4年度数値

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

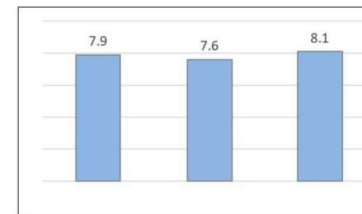
I. I 全国主事会における伝達事項（4）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

令和5年度「英語教育実施状況調査」より

パフォーマンステストの実施状況
(パフォーマンステストの実施回数の平均)

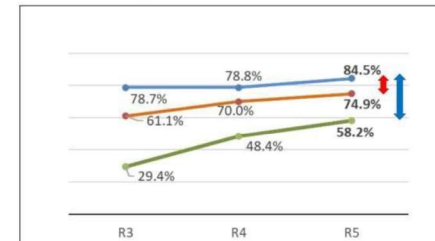
【小学校】



「話すこと」の
パフォーマンステストの
実施回数の平均は7.9回

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標

【小学校】



↑ 設定しているが達成状況を把握していない ↓ 設定しているが公表していない

「英語を使って何ができるようになるのか」という観点による「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定しているものの、達成状況を把握していない学校や公表していない学校が一定数ある

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（4）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について



記録に残す評価場面
事例1における「記録に残す評価場面」

We Can! 1 Unit2 「聞くこと」・「話すこと[やり取り]」

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1			
2			
3			
4	聞く		
5		聞く	聞く
6	話すこと[やり取り]		
7		話すこと[やり取り]	話すこと[やり取り]

○記録に残す評価と指導に生かす評価の理解

○評価場面を適宜設け、児童の達成状況を見取りながら継続的に指導を行うことが重要

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（４）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標

	設定	把握	公表
小学校	84.5(78.8)	74.9(70.0)	58.2(48.4)
	← 9.6(8.8) →	← 16.7(21.6) →	
		← 26.3(30.4) →	
		80.7(78.4)	71.6(65.7)
	← 5.4(15.7) →	← 9.1(12.7) →	
		← 24.5(28.4) →	
		65.0(64.1)	66.2(64.0)
高等学校	29.8(29.4)	1.2(0.1)	
	← 28.6(29.5) →		

※()は、R4年度数値

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（４）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標

	設定	把握	公表
小学校	84.5(78.8)	74.9(70.0)	58.2(48.4)
	← 9.6(8.8) →	← 16.7(21.6) →	
		← 26.3(30.4) →	
	6.1(94.1)	80.7(78.4)	71.6(65.7)
	← 15.4(15.7) →	← 9.1(12.7) →	
		← 24.5(28.4) →	
	94.8(93.5)	65.0(64.1)	66.2(64.0)
	← 29.8(29.4) →	← 1.2(0.1) →	
		← 28.6(29.5) →	

授業についての理解
・単元など内容や時間のまとまりを見通して授業を組み立てているか。
・学習者にめあてを提示し、どんな力を身に付けるかを理解させているか、つまり主体的に学習に取り組ませているか。

年度数値

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

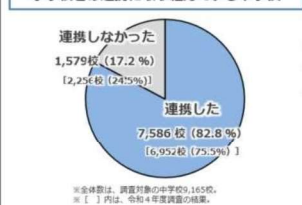
I. I 全国主事会における伝達事項（５）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

- 小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.8%(昨年度比7.3%増加)。
- 情報交換だけでなく、指導方法の交流やカリキュラムの設定等、より充実した連携に取り組む必要。

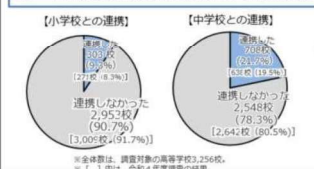
小学校との連携に取り組んでいる中学校



【中学校と小学校との連携の形態】
(複数回答可)



小・中学校との連携に取り組んでいる高等学校



【高等学校と小・中学校との連携の形態】
(複数回答可)



(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I. I 全国主事会における伝達事項（５）

学習指導要領では

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

(『中学校学習指導要領解説外国語編』p.85)

【知識及び技能】

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.1 全国主事会における伝達事項（5）

学習指導要領から読み解く高等学校のポイント

第1 目標(3) (学びに向かう力、人間性等「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」)

◎「主体的、**自律的に**外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」とは…

授業等において言語活動を通して
実際にコミュニケーションを図る

学習内容等が
高度化・複雑化

自分にはどのような力が足りないか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考え、それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとする態度

この態度を養うことにより…

学校教育以外の場面においても、生涯にわたって外国語の習得に継続して取り組もうとするといった態度を養う

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

I.2 徳島県の施策（1）

これまでの、

国語力向上タスクフォースの提案の各教科等の
授業への活用の推進と状況の把握



すべての教科等にわたる国語力を
生かした授業改善の方向性

子供たちが、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、正確に理解し適切に表現する資質・能力を身に付けることにより、**すべての学習の基盤となる国語力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。**

新たな取組へ

I.2 徳島県の施策（1）

令和6年度からは、

すべての教科等にわたる「**徳島版読解力**」を活かした学力向上のポイント

を意識して取り組んでいく。

読解力とは？

すべての教科等にわたる「徳島版読解力」を生かした学力向上のポイント

「徳島版読解力」の育成をめざして

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

- 1 正確に読む力
多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力
- 2 必要な情報を取り出す力
読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力
- 3 比較・関連付けて理解する力
取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力
- 4 見直す力
取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力
- 5 発信する力
取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力

「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面【A～E】において「5つの力」を育成！
【授業】

★全ての教科等での取組
★学習方法・ツールの工夫
★授業、授業外での繰り返し



徳島県教育委員会

I.2 徳島県の施策（1）

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



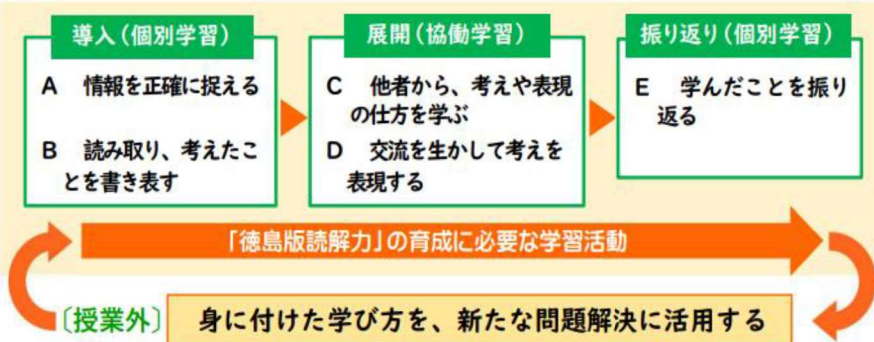
I.2 徳島県の施策（I）

「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面〔A～E〕において「5つの力」を育成！

〔授業〕

★全ての教科等での取組
★学習方法・ツールの工夫
★授業、授業外での繰り返し



I.2 徳島県の施策（I）

「徳島版読解力」育成に必要な学習活動等

「徳島版読解力」を構成する五つの力

- 1 正確に読む力（多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力）
- 2 必要な情報を取り出す力（読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力）
- 3 比較・関連付けて理解する力（取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力）
- 4 見直す力（取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力）
- 5 発信する力（取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力）

学習場面			学習活動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例
授業	導入 (個別学習)	A 情報を正確に捉える	○文章などを繰り返し読む。 ○意味の分からない語句や表現を取り出し、調べ。 ○心に残る表現や大事なところを探す。 ○全体をいくつかの部分（問題、例、データ、まとめなど）に分けたり、事実と考えを区別したりする。 ○語句と語句、情報相互の関係を見付けて、整理する。 ○言語情報と、図・表・グラフ・写真などの関係を読み取る。 ○問題の解決につながりそうな部分を見付ける。	1・4 1 1 2 3・4 1・2 3 2	【音読、黙読、視写、聴写】 【傍線や下線を引く】 【丸や四角で囲む】 【線でつなぐ】 【図、表、思考ツール】 【辞典、事典】	【インターネット】
			○思いついたことを書き留める。 ○箇条書きにしたり見出しを付けたりして、書き留めたことを分かりやすく整理する。 ○書き留めたことを見直し、付け足したり、削ったりして、推敲する。	1・2 3・5 4・5	【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】 【図、表、思考ツール】	

I.2 徳島県の施策（I）

「徳島版読解力」育成に必要な学習活動等

「徳島版読解力」を構成する五つの力

- 1 正確に読む力（多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力）
- 2 必要な情報を取り出す力（読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力）
- 3 比較・関連付けて理解する力（取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力）
- 4 見直す力（取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力）
- 5 発信する力（取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力）

学習場面			学習活動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例
授業	展開 (協働学習)	C 他者から、考えや表現の仕方学ぶ	○情報を出し合ったり、根拠を明確にして考えを伝え合ったりする。 ○他者の伝えたいことや考えがはっきりするように、質問や応答をする。 ○他者の考えを聞き、自分の考えや表現の仕方との共通点、相違点を見付ける。 ○他者と協力して問題を解決する。	1 2 3 4 5	【相互評価、コメント】 【話し合い、討論（ペア・グループ・クラス）、スピーチ】 【ポスターセッション】 【質問、応答】 【図、表、思考ツール】	【チャット】 【学習支援クラウドアプリ】
			○交流の中で心に残った他者の言葉や表現の仕方の工夫を書き留める。 ○新しく知ったことや考えたことを付け加えたり、不要な情報を削ったりして、分かりやすい表現に直す。 ○情報の軽重を判断し、色や印を使って可視化する。	1・2 4・5 2・3	【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】 【線でつなぐ】 【図・表・思考ツール】	

I.2 徳島県の施策（I）

「徳島版読解力」育成に必要な学習活動等

「徳島版読解力」を構成する五つの力

- 1 正確に読む力（多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力）
- 2 必要な情報を取り出す力（読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力）
- 3 比較・関連付けて理解する力（取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力）
- 4 見直す力（取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力）
- 5 発信する力（取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力）

学習場面			学習活動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例
授業	振り返り (個別学習)	E 学んだことを振り返る	○多様な考えや情報を比較したり、関連付けたりして、自分の考えを見直し、表現する。 ○学習活動の達成感だけでなく、学んだことや考えたことも記録に残す。 ○新たにもった疑問や、次に向けての目標を書き留める。 ○個々の振り返りを共有し、自分の学習に生かす。	3・4 5 2・4 3・5 4・5	【線でつなぐ】 【図・表・思考ツール】 【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】	【メモ・付箋機能】 【画像、動画】 【学習支援クラウドアプリ】

I.2 徳島県の施策（1）

「徳島版読解力」育成に必要な学習活動等

「徳島版読解力」を構成する五つの力

- 1 **正確に読む力**（多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力）
- 2 **必要な情報を取り出す力**（読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力）
- 3 **比較・関連付けて理解する力**（取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力）
- 4 **見直す力**（取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力）
- 5 **発信する力**（取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力）

学 習 場 面	学 習 活 動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例
授 業 外	○興味・関心のあることや、予習・復習で生じた疑問に関する情報を集める。	1・3	【書籍】 家族や友達などの他者】	【インターネット】 【メモ・付箋機能】 【学習支援クラウドアプリ】
	○読書や会話を通して、生活の中で出会う様々な問題に関心をもち、言葉の量を増やす。	4	【書籍】	
	○集めた情報を読んだり、心に留まったことを記録したりすることに慣れる。	1	【会話】	
	○学習したツール等を使って、多様なメディアを観たり、読んだり、聞いたり、表現したりすることに慣れる。	2・3	【自主学習ノート】	
		2・5	【書籍】 【新聞】	

II.1 協議（2）

小学校外国語教育における現状と今年度の取組について

ICT機器の活用状況

- ほぼ全ての学校がICT機器を活用しており、多くの活動で活用割合は増加している。
- 「児童生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業」については、小学校では約8割、中学校では約9割となっている。
- 遠隔地の者と交流する活動も増加傾向にあるが、更なる活用が望まれる。

以下の活動にICT機器を活用した割合	小学校	中学校	高等学校
児童生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業【新規】	82.1%	90.8%	41.0%
児童生徒がデジタル教材等（デジタルドリルや動画等のコンテンツ）を活用した授業 ※学習者用デジタル教科書は含まない【新規】	78.7%	89.4%	77.3%
児童生徒が1人1台端末を活用した授業	96.4% (96.8%)	99.4% (99.4%)	96.4%
児童生徒が1人1台端末・パソコン等を用いて発表や話しごとにおけるやり取りをする活動	88.9% (85.3%)	93.2% (90.8%)	89.2% (86.9%)
児童生徒による、発話や発音などの録音・録画	69.6% (66.1%)	82.7% (78.4%)	71.0% (69.6%)
児童生徒がキーボード入力等で書く活動	71.6% (67.6%)	89.9% (87.0%)	84.9% (78.3%)
児童生徒が電子メールやSNS、チャットを用いたやり取りをする活動	9.9% (6.1%)	20.9% (14.0%)	32.6% (28.3%)
児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で語って交流する活動	12.9% (11.4%)	12.8% (10.1%)	21.2% (19.8%)
遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行う授業	7.0% (6.1%)	7.4% (6.4%)	11.5% (13.7%)
児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動	5.2% (3.8%)	7.3% (5.9%)	14.0% (11.4%)

※（ ）内は、令和4年度調査の結果、
※全ての割合について、「ICT機器を活用した学校数」を分子、学校数全体を分母として計算。

（出典）令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

II.1 協議（2）

外国語教育におけるICT活用の利点

①【言語活動・練習】

→児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化

- ・言語活動（特に「話す」、「書く」機会）の充実とパフォーマンステスト等評価への活用
- ・言語活動で活用するための、音声・文字・語彙・文構造・文法などの定着（繰り返し練習）
- ・一人一人の能力や特性に応じた学びの機会の確保

②【交流・遠隔授業】

→遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応

- ・遠隔地や海外等の児童生徒、英語話者との「本物のコミュニケーション」
- ・新型コロナウイルス対応や大規模災害等に伴う休業期間における学びの保障
- ・小規模校における対話的な学びが可能。

③【コンテンツ・授業運営】→興味・関心、学習の質を高める

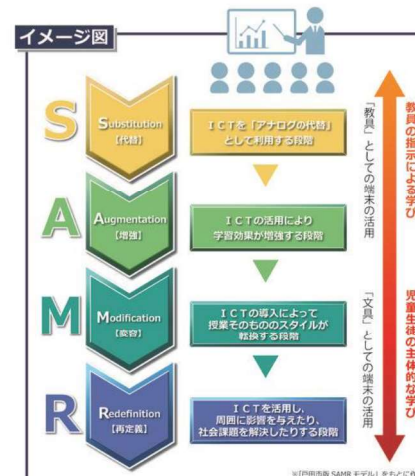
- ・コミュニケーションのモデル提示、「聞く」「読む」ための素材の提供
- ・板書や説明時間の短縮等により、言語活動中心の授業展開が可能
- ・写真やイラスト等により、日本語を介さずに英語のまま理解することを支援

（出典）文部科学省 外国語の指導におけるICTの活用について

II.1 協議（2）

徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の革新、1人1台端末の日常的・効果的な活用推進のために策定しました。
ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定着観測をしたり、授業デザインを模索したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために促してまいります。



SAMR（セイマー）は、Substitution（代換）、Augmentation（増強）、Modification（変容）、Redefinition（再定義）の頭文字を取った言葉で、アメリカの教育学者・Ruben R. Puentedura氏が2010年に提唱したICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標です。

- 1 Substitution【代換】
 - ICTをアナログの代換として利用する
 - 例）教師が、
 - デジタル教科書で本文を表示する。
 - タブレット端末、大型TVや電子黒板に教材・資料を表示する。
 - オンラインストレージで、スライドを共同編集させる。
 - MetaMol Classroomで課題を配布、回収する。
- 2 Augmentation【増強】
 - ICTの活用により学習効果が向上する
 - 例）教師が、
 - 発表や模範、実験などを録画し、振り返りに活用させる。
 - Microsoft Teamsを利用し、課題を相互確認させる。
 - Classのポートフォリオにより、学びの定着を確認させる。
 - データの即時集計や可視化をし、傾向を分析させる。
- 3 Modification【変容】
 - ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する
 - 例）生徒が、
 - ロイノートを活用して自宅で反転学習を行い、学校では対話や協働作業などの活動を行う。
 - オンラインで専門家とつながり、活動への助言をもらう。
 - 遠隔地の学校とオンラインでつながり、相互に学ぶ。
 - Microsoft Formsを利用し、アンケートをとって分析する。
- 4 Redefinition【再定義】
 - ICTを活用し、周囲に影響を与えたり、社会課題を解決したりする
 - 例）生徒が、
 - 社会課題の解決のためのコンテンツを作成し、リリースする。
 - プロジェクトを企画し、ICTを活用して進行・完結する。
 - 企業とコラボし、ICTを活用して商品開発、流通、販売を行う。

Ⅱ.Ⅰ 協議（２）

学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

文部科学省 学習者用デジタル教科書実証事業研究指定校の取組例



単元終末の言語活動に向けて、子供たち自身が**表現の工夫**に気付いたり、**内容を深めたり**していくためには、自ら学習者用デジタル教科書を使う経験を積み重ね、学び方を広げることが必要

家庭学習でも**学びが続けられるように**、自分で課題を設定しながら学習を積み重ねる取組を工夫。友達が活用したコンテンツを共有したり、教師が広めたりすることで、子供たちの**学びが広がる**

英語家庭学習表

氏名	自分の課題	単元	コンテンツ	スピード	回数	単元	コンテンツ	スピード	回数
前巻の物語を2つのパートに分けて、再読みしたいのかを覚えるようにしよう。	Unit1	Step1 Let's chant	1	4	Unit1	Step1 Let's watch	1	4	4
なんの物語になりにたいかと、その理由を書けるようにしよう。	Unit1	Step1 Let's chant	1	5	Unit1	Step2 Let's chant	1	5	5
前巻の夢は、なにが実現できるようにしよう。	Unit1	Step1 Let's chant	1	4	Unit1	Step2 Let's listen	1	4	4
今日やったことの振り返りを、理由を書けるようにする。	Unit1	STORY	1	2	Unit1	Step1 Let's chant	1	3	3

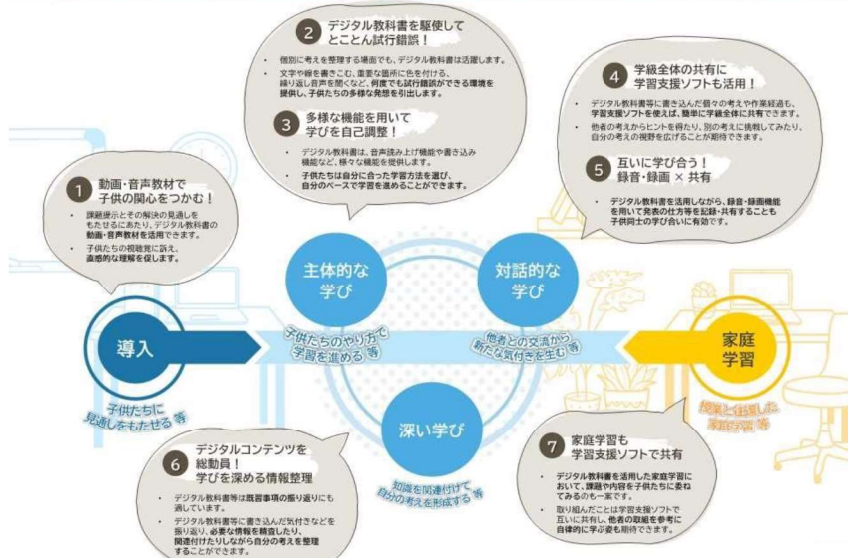


授業の中で、「先生、調べたいので時間をください。」と**子供たちから意見**が出たり、端末に録画した動画を**自らALTIに見せてアドバイス**をもらったり、**児童自身が学び方を選択しながら進める姿**が見られるようになった。**また、友達の発表内容をよく聞いて、自身のパフォーマンスに生かす姿も見られるようになった。**

(出典) 令和6年度小学校各教科等担当主事連絡協議会 配付資料

Ⅱ.Ⅰ 協議（２）

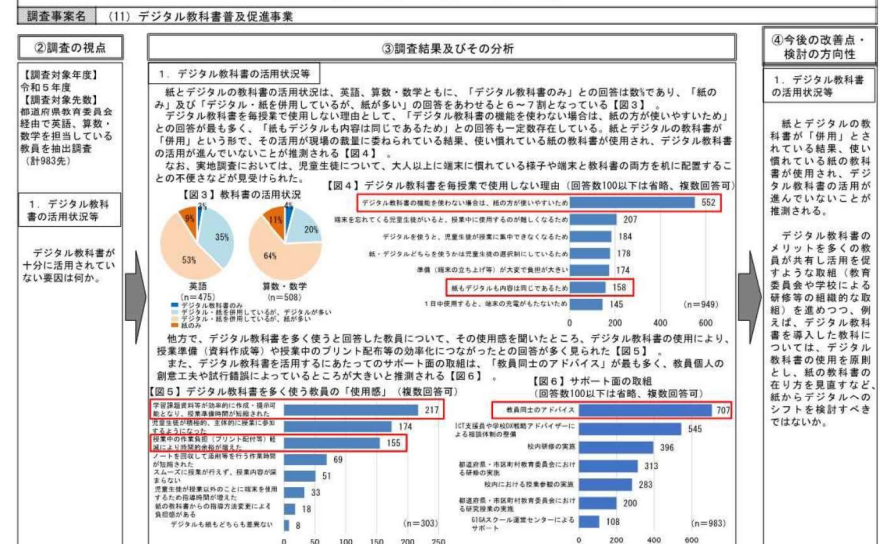
こんなに使える！デジタル教科書・教材・学習支援ソフト — 学びを子供に委ねる7つのアイデア



(出典) 文部科学省 令和5年度学習者用デジタル教科書の効果・影響に関する実証研究事業「リーフレット」

Ⅱ.Ⅰ 協議（２）

総括調査票



(出典) 財務省 予算執行調査資料 総括調査票(令和6年6月公表分)

Ⅱ.Ⅰ 協議（２）

【家庭学習でのICT機器の使用頻度】×【英語の授業の内容はよく分かる】



【家庭学習でのICT機器の使用頻度】×【英語の勉強は好き】



(出典) 国立教育政策研究所 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

